院生研究活動状況一覧

2014年１月１日から2014年12月31日までの間に発表されたもので，
本人より申告されたもののみを記載した。

《教育学専攻（一貫制）》

河内真美（比較・国際教育学）

〈論文〉

・「ユネスコによる「識字の多元性」概念提唱の意義―「識字環境アプローチ」を手がかりに―」『社会教育学研究』（日本社会教育学会）第50巻第１号，2014年3月，pp.21-30。

〈総説・科研報告書等〉

・「書評 Okayama ESD Promotion Commission, UNESCO Chair at Okayama University (eds.) *Education for Sustainable Development (ESD) and Kominkan / Community Learning Centre (CLC): Promotion of ESD by utilizing Kominkan / CLC*」『日本公民館学会年報』（日本公民館学会）第11号，2014年11月，pp. 164–165。

《教育基礎学専攻》

安藤めぐみ（教育行政学）

〈学会発表〉

・「ベトナムにおける学校保健政策の動向と課題―学校保健主事に焦点をあてて―」，日本教育行政学会第49回大会，東京学芸大学，2014年10月11日

・「ベトナムにおける学校保健主事配置の政策動向」，第61回日本学校保健学会，石川県教育会館，2014年11月16日

石田治頼（外国教育史）

〈論文〉

・「『イエズス会学事規程』にみる教育とハビトゥス形成」，『日本の教育史学：教育史学会紀要』（教育史学会）57集，2014-10-01，97－109.

〈その他　受賞など〉

・第４回教育史学会研究奨励賞　受賞（2014-10-04）.

内山絵美子（教育行政学）

〈編著書〉

・「国の関与は強くなるのか」，村上祐介編著，『教育委員会改革５つのポイント―「地方教育行政法」はどう改正されたのか』，2014年12月，初版，学事出版，144頁（執筆100－108頁）

〈論文〉
・「教育経営・行政に関する研究動向」,『教育制度学研究』(日本教育制度学会) 第21号, 2014年11月, 238～244頁.
・「教育政策形成における政府間関係の分析枠組—動的相互依存モデルの可能性—」,『教育学系論集』(筑波大学人間系教育学域), 第38巻, 2014年3月, 1～13頁
〈学会発表〉
・末冨芳, 本多正人, 貞広斉子, 佐藤博志, 大野裕之, 田中真秀, 内山絵美子,「効果的な学校運営のための学校財務の実証的研究(1)—学校レベルでの予算・財務の実態と課題を中心に—」日本教育経営学会, 北海道教育大学釧路校, 2014年6月8日

川本太郎(教育哲学)
〈論文〉
・「クリスマスと私」『東京純心女子大学 CAMPUS MINISTRY NEWS No. 84』2014年12月, キリスト教文化研究センター 2頁。
・「本の思い出 研究のはじまりのはじまり」『東京純心女子大学図書館報 BIBLIA N.S. 30』2014年12月日, 東京純心女子大学 図書館, 4頁。

留目宏美(学校経営学)
〈論文〉
・「学力向上のための学校の組織的取組とその課題に関する一考察—X県の管理職を対象としたアンケート調査をもとに—」,『学校経営学論集』(筑波大学学校経営学研究会)第2号, 2013年2月, 22－45頁.(共著:吉田ちひろ, 留目宏美)
〈学会発表〉
・「学校での薬物乱用防止教育における「飲酒」指導への意識—教諭と養護教諭との比較から—」, 第43回新潟県学校保健学会, アトリウム長岡, 2014年12月6日.(共同発表:松下あゆみ, 増井晃, 留目宏美)
〈その他 受賞など〉
・日本看護科学学会 第13回学術論文優秀賞

蜂屋大八(生涯学習・社会教育学)
〈論文〉
・「学生参画型地域づくりプログラムによる中山間地域コミュニティの活性化」,『地域活性研究』(地域活性学会) vol. 5, 2014年3月, p. 171－180
・「都市部と農村部との異文化交流から創出される学び—山形県最上郡金山町「域学連携」事業から—」,『茗渓社会教育研究』第5号, 2014年6月, p. 71－82
〈学会発表〉
・「中山間地域コミュニティにおける社会関係資本形成と住民の学習の関係性—山形県金山町を事例として—」, 日本社会教育学会, 日本社会教育学会第61回研究大会(福井大学), 2014. 9. 26
・「中山間地域における愛郷精神の涵養と住民の学習—山形県金山町を事例として—」, 日本村落研究学会, 日本村落研究学会第62回大会(グリーンピア三陸みやこ), 2014. 11. 1

Chankea Phin（教育行政学）

〈論文〉

※ Phin, C. (2014a). Teacher competence and teacher quality in Cambodia's educational context linked to in-service teacher training: an examination based on a questionnaire survey, International Journal of Educational Administration and Policy Studies, vol. 6, No. 4, pp. 62–69.

※ Phin, C. (2014b). Challenges of Cambodian Teachers in Contributing to Human and Social Development: Are They Well-Trained?, International Journal of Social Science and Humanity, Vol. 4, No. 5, pp. 344–348.

※ Phin, C. and Kubota, S. (2014). Issues Concerning In-Service Training Program of Teachers in Cambodia: Perspective and Option, In Nuland, S.V. (Edt.). 58th Yearbook of Teacher Education: International Council on Education for Teaching (ICET), pp. 262–271.

〈学会発表〉

※ Phin, C. and Kubota, S. (2014a). Issues Concerning In-Service Training Program of Teachers in Cambodia: Perspective and Option, the 58th International Council on Education for Teaching (ICET) World Assembly, June 16-19, 2014, University of Ontario Institute of Technology (UOIT), Oshawa, Ontario, Canada.

・Phin, C. and Kubota, S. (2014b). Teachers' Perception and Prospect on Educational Resources toward Education Quality Improvement in Cambodia, Japan Comparative Education Society (JCES) the 50th Annual Conference, July 11–13, 2014, Nagoya University: Japan.

古田雄一（学校経営学）

〈論文〉

・「アクション・リサーチを通じて産出される知に関する一考察 ―学校経営研究の方法論に関連づけて―」,『学校経営学論集』（筑波大学学校経営学研究会）第２号，2014年２月，pp. 1－10.

・「教育委員会制度改革をめぐる近年の動向―「教育再生実行会議」の提言以降の改革論議の動向を中心に―」,『学校経営研究』（大塚学校経営研究会）第39巻，2014年３月，pp. ２－９.

・「シティズンシップ教育研究の観点から（日本学習社会学会第10回大会記念シンポジウム報告）」,『日本学習社会学会年報』（日本学習社会学会）第10号，2014年８月，pp. 28－31.

〈学会発表〉

・「米国パブリック・アチーブメントを支える教育経営―困難を有する学校での導入事例を中心に―」，日本教育経営学会第54回大会，北海道教育大学釧路校，2014年６月７日.

・「米国パブリック・アチーブメントの実践に関する一考察 ―多様性に開かれた社会参加の学習の理念と方法―」，日本公民教育学会第25回全国研究大会，福井大学文京キャンパス，2014年６月28日.

《学校教育学専攻》

相賀由美子（道徳教育学）

〈論文〉

・「シュタイナーにおける幼児期の『健康な道徳感覚』の育成」道徳と教育（日本道徳教育学会）第58巻　第332号　平成26年３月31日　３～14ページ

泉　貴久（社会科教育学）

〈編著書〉

・『地理Ｂ』（平成25年高等学校地理歴史科用検定済教科書），金田章裕ほか編，2014年２月，B5変型版，東京書籍，342頁．

・『地理Ｂ指導書』，地理B編集委員会編，2014年２月，A5版，東京書籍，448頁．

・「アメリカ合衆国―オガララ帯水層の枯渇―」，『開発教育・環境教育教材　日本と世界の水事情　水から広がる学び　アクティビティ20』，特定非営利活動法人　開発教育協会編，2014年３月，A4版，特定非営利活動法人　開発教育協会，123頁，40頁．

・「The Association of Japanese Geographers' Social Action Program and Geography Education」（Hiromi Iwamoto との共著），Yoshiyasu Ida, Minori　Yuda, Takashi Shimura, Shunsuke Ike, Koji Ohnishi and Hideki Ohshima ，『Geography Education in Japan eBook』，2014年12月，A4版，Springer，243頁，143–153頁．

〈論文〉

［学術論文］

・「地理教育における社会参加学習の課題―学校周辺地域を対象とした授業実践を手掛かりに―」，『中等社会科教育研究』（中等社会科教育学会）第32号，2014年３月，81－99頁．

［雑誌論考］

・「新しい高校地理教育への提言」，『地理』（古今書院）第59巻第２号，2014年２月，41－49頁．

・「地理オリンピック三次選抜試験にみる「地理力」」，『地理』（古今書院）第59巻第６号，2014年６月，92－98頁．

〈総説・科研報告書等〉

・「教師の社会科地域学習に対する意識の実態―岩手県遠野市の場合―」，『地域と教育』（筑波大学博士課程人間総合科学研究科教育学専攻「社会科教育学特講」調査報告）第13号，2014年８月，145頁，78－114頁．

〈学会発表〉

・「ESD実践へのいざない」，独立行政法人　国際協力機構（教師海外研修全体会・実践報告），JICA地球ひろば，2014年３月９日．

・「教師の社会科地域学習に対する意識の実態―岩手県遠野市の場合―」，日本地理教育学会（大会・一般研究発表），横浜国立大学教育人間科学部，2014年８月10日．

・「新しい高校地理教育への提言―市民性育成を目指した地理授業のあり方を考える―」，全国社会科教育学会（全国研究大会・課題研究発表），愛媛大学城北キャンパス，2014年11月２日．

・「社会参加を意図した高等学校地理授業の成果と課題―「アマゾン熱帯林開発と持続的発展」の授業実践を例にして―」，日本社会科教育学会（全国研究大会・自由研究発表），静岡大学教育学部，2014年11月29日．

・「ESD授業実践紹介」，独立行政法人　国際協力機構（開発教育指導者研修・実践報告），JICA地球ひろば，2014年12月６日．

・「国際地理オリンピックからみた地理教育の社会的貢献」，全国中学校地理教育研究会主催，日本地理教育学会共催（地理教育全国合同シンポジウム・提言），早稲田大学早稲田キャンパス，2014年12月27日．

〈その他　受賞など〉

・「書評　金玹辰：『地理カリキュラムの国際比較研究―地理的探究に基づく学習の視点から』」，『新地理』（日本地理教育学会）第62巻第２号，2014年８月，65－68頁．

泉　直志（理科教育学）

〈総説・科研報告書等〉

・「Next Generation Science Standards における Argumentation に関するK-12の構成の解明：科学・工学のプラクティスを事例として」，長洲南海男・科学研究費補助金（基盤研究（C)），『米国の革新的科学／技術・工学／数学教育の解明： 日本の教育革新へのビジョン提言』，2014年９月，総頁数58頁，30－40頁。

〈学会発表〉

・「STEM における Argumentation：Next Generation Science Standards における科学・工学的実践の内容配列」，STEM 研究会，常葉大学，2014年５月18日。

・「米国科学教育におけるアーギュメンテイションの位置づけとその内容：A framework for K-12 Science Education と Next Generation Science Standards に焦点を当てて」，日本理科教育学会，秋田大学，2014年11月８日。

〈その他　受賞など〉

・日本科学教育学会奨励賞，2014年９月。

伊藤哲章（理科教育学）

〈論文〉

・「高校生のバイオテクノロジーに対する意識―農業高校における植物バイオテクノロジー教育の影響―」，『生物教育』，第55巻，第１号，2014年12月，24－32頁.

・「イギリスの初等科学教育に関する一考察―初等科学教科書（Key Stage1・2）を中心に―」，『郡山女子大学紀要』，第51集，印刷中.

〈総説・科研報告書等〉

・「環境教育に関わるイギリス初等教科書の分析」平成23年度～平成25年度科学研究費補助金基盤研究（B）（研究者代表：大高泉），『ドイツ・アメリカ等の新環境教育の教科教育学的検討と教科型環境学習プログラム開発』，2014年３月，33－40頁.

〈その他　受賞など〉

・「環境教育に関わるイギリス初等教科書の分析」，『日本科学教育学会研究会研究報告』（日本科学教育学会），第28巻，第５号，2014年４月，60-65頁.

・「アメリカ合衆国における SAT 生物試験のバイオテクノロジー分野の特質」，『日本科学教育学会研究会研究報告』（日本科学教育学会），第29巻，第２号，2014年11月，111－114頁.

榎本哲士（数学教育学）

〈総説・科研報告書等〉

・「算数・数学の評価に関する海外の研究・実践の動向」，『算数・数学科における「思考・判断・表現」の評価に関する研究』（日本教材文化研究財団），2014，pp. 70－83.

〈学会発表〉

・「中学校数学科における二元一次方程式に関する仮説的学習軌道の分析」，日本数学教育学会秋期研究大会，2014年11月.

・「中学校数学科における二元一次方程式の関数的見方に関する一考察：数学的概念の二面性を手がかりに」，日本教材学会第26回研究発表大会，2014年10月.

※ The Characteristic of Students' Algebraic Thinking：Focus on the Liner Equation with Two Unknowns and the Liner Function，The 38th Conference of the　International Group for the Psychology of

Mathematical Education and the 36th Conference of the North American Chapter of the Psychology of Mathematics Education, 2014年７月.

〈その他　受賞など〉

・日本数学教育学会　学会賞（大学院生研究奨励部門）受賞，2014年11月

・筑波大学大学院人間総合科学研究科長表彰，2014年３月

遠藤優介（理科教育学）

〈論文〉

・「化学の『認識獲得』コンピテンシーの育成に向けた教材構成―Chemie im Kontext プロジェクトの教材を事例として―」，『教材学研究』（日本教材学会），第25巻，2014年３月，199－206頁.

・「ドイツにおけるコンピテンシー指向の科学カリキュラム編成の特質―化学のコンピテンシー領域を中心として―」，『理科教育学研究』（日本理科教育学会），第55巻，第２号，2014年７月，169－179頁.

〈総説・科研報告書等〉

・「ドイツの初等理科にみる環境教育の展開―教科『事実教授』を中心として―」，平成23年度～平成25年度 科学研究費補助金 基盤研究（B）（研究代表者：大高泉），『ドイツ・アメリカ等の新環境教育の教科教育学的検討と教科型環境学習プログラム開発 研究成果報告書』，2014年3月，100頁，15－24頁.

〈学会発表〉

・「ドイツ科学教育におけるコンピテンシーモデル構築の展開」（課題研究発表），日本科学教育学会第38回年会，埼玉大学，2014年９月13日.

〈その他　受賞など〉

・「PISA ショック後のドイツにおける幼児期の科学教育の展開―バイエルン州を事例として―」，『日本科学教育学会研究会研究報告』（日本科学教育学会），第28巻第５号，2014年４月，78－81頁.

勝田　光（人文科教育学）

〈論文〉

・「生徒の読者反応を支援する教師の役割―単元「文学の学び方～『走れメロス』による～」―」『国語科教育』，第76集，2014年８月，pp. 15－22.

〈学会発表〉

・「読みの目標の違いが中学３年生の文章産出に与える影響」，全国大学国語教育学会，筑波大会，2014年11月９日.

勘米良祐太（人文科教育学）

〈論文〉

・「中学生の作文における「文法的誤り」の実態―課題による誤り方の差異に着目して―」，『国語科授業分析研究』（筑波大学教育学系人文科教育学研究室）10，2014年３月，pp. 155－164

・「明治30年代における三土忠造『中等国文典』の歴史的位置―教材上の工夫および文法論上の知見から―」，『日本語と日本文学』（筑波大学日本語日本文学会）57，印刷中

・「1902（明治35）年中学校教授要目告示による作文に関する教育内容の変化―友田宜剛の教科書を手がかりに―」，『読書科学』（日本読書学会）56(2)，2014年11月，pp. 1–14

・「中学校教授要目改正（明治44年）による文法教科書の変化―作文教育への「附帯」的指導に着目して―」,『国語科教育』（全国大学国語教育学会）77，印刷中

〈学会発表〉

・「中学生の作文における「文法的誤り」の実態 ―課題による誤り方の差異に着目して―」，筑波大学教育学会第12回大会，筑波大学附属中・高等学校，2014年３月８日

・「国語科における文法教育の目的の史的変遷」，人文科教育学会第31回研究発表会，筑波大学文科系修士棟模擬授業室，2014年５月１日

・「文法ブーム以降の「文法的誤り」枠組みの再検討 ―森岡健二，永野賢を中心に―」，全国大学国語教育学会第126回大会，ウインクあいち，2014年５月17日（共同発表：勘米良祐太，松崎史周）

・「小・中学生における主述不照応の修正状況」，全国大学国語教育学会第127回大会，筑波大学，2014年11月９日（共同発表：松崎史周，稲井達也，山下直，勘米良祐太）

・「中学校教授要目改正（明治44年）による文法教科書の変化―作文教育への「附帯」的指導に着目して―」，全国大学国語教育学会第127回大会，筑波大学，2014年11月９日

・「明治中期における中学校作文教科書の変化 ―『日用文鑑』の改訂過程に着目して―」，人文科教育学会第33回研究発表会，筑波大学文科系修士棟国語科セミナー室，2014年12月４日

國原幸一朗（社会科教育学）

〈論文〉

・「GIS を利用した主題図学習―高等学校地理の「国家の結び付き」を捉えるための航空交通の学習を通して―」,『学校教育学研究紀要』（筑波大学人間総合科学研究科学校教育学専攻），第７号，2014年３月，41－60頁

・「地域素材を利用した表現活動による地域との結びつき―神島小学校の総合的な学習の時間の学習活動を通して―」,『新地理』，第62巻第２号，2014年８月，１－10頁

〈総説・科研報告書等〉

・「地理における環境教育の課題―アメリカのナショナルスタンダード地理と TGMG を手がかりに―」，大髙泉・平成23～25年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究,『ドイツ・アメリカ等の新環境教育の教科教育学的検討と教科型環境学習プログラム開発』，2014年３月，100頁，41－50頁

・「地域との関わりからみた防災における教師の支援―岩手県遠野市の小・中学生に対する意識調査を手がかりに―」,『地域と教育』（筑波大学博士課程人間総合科学研究科教育学専攻「社会科教育学特講」調査報告），第13号，2014年８月，145頁，１－32頁

〈学会発表〉

・「地理的スキル育成における GIS の役割」，日本地理教育学会（第64回大会），横浜国立大学，2014年８月10日

・「地域の問題を発見・探究するための GIS の利用」，日本社会科教育学会（第64回全国研究大会），静岡大学，2014年11月29日

小嶋秀輝（教育工学）

〈論文〉

・「日常知と学校知の連続性に関する一考察：ID 崩しを手がかりとして」,『臨床教育学研究』（日本臨床教育学会）２巻，2014年４月，75頁～89頁.

小林岳人（社会科教育学）

〈論文〉

・「地理の学習にオリエンテーリングを！」,『地理』（古今書院）60巻１号，60－63ページ

・「学校でのオリエンテーリング―1987～1990年の必修クラブでの実習と2012年からの地理の授業での実習の比較」,『房総地理』（千葉県高等学校教育研究会）第65号，３－23ページ

〈学会発表〉

・「高等学校地理授業でのオリエンテーリング実習とその効果についての研究」日本地理学会春季学術大会，国士舘大学世田谷キャンパス，2014年３月28日（金）

・「地理教育の視点からみた日本におけるオリエンテーリングの歩みと現況」日本地理教育学会研究大会，横浜国立大学，2014年８月10日（日）

鈴木貴史（人文科教育学）

〈学会発表〉

・「明治初期における書字教育の技能教育化」，筑波大学日本語日本文学会，筑波大学，平成26年10月４日

那　楽（道徳教育学）

〈論文〉

・「日中韓における道徳資料の比較研究―特に韓国の小学校第１学年の『正しい生活』における『礼』に着目して―」『学校教育学研究紀要』（筑波大学人間総合科学研究科学校教育学専攻）第７号，2014年３月，pp 1－pp 19

〈総説・科研報告書等〉

・「中国における小学校低学年の道徳資料の特質―日本の学習指導要領の視点から―」,『教材学研究』（日本教材学会）第25巻，2014年３月，pp 207－pp 214

〈学会発表〉

・「Comparative Study of Moral Teaching Materials in China, Japan and South Korea Analyzing the textbook of Grade 1 in Korean elementary school from the “etiquette”」，世界比較教育学会，北京師範大学（中国），2014年９月26日

中嶋真弓（人文科教育学）

〈論文〉

・「荒木繁の古典教育論の考察」,『愛知淑徳大学論集―文学部・文学研究科篇―第39号』（愛知淑徳大学文学部論集編集委員会），2014. 3. 15，pp. 33－45

・「時枝誠記の古典教育論の考察」,『愛知淑徳大学論集―教育学研究科篇―第４号』（愛知淑徳大学大学院教育学研究科論集編集委員会），2014. 3. 18，pp. 87－97

花園隼人（数学教育学）

〈編著書〉

・「高等学校数学科における思考力の評価課題の開発とその実践的検討：問題解決のための構想を立てる思考としての類推に焦点を当てて」，清水美憲ほか,『算数・数学科における「思考・判断・表現」の評価に関する研究』，2014年９月，公益財団法人 日本教材文化研究財団，総ページ数114，執筆　pp. 56－62.

〈論文〉
・「学校数学における『美しさ』を捉える枠組みの構築：数学における『美しさ』の特色の分析を通して」,『筑波大学人間総合科学研究科学校教育学専攻学校教育学研究紀要』, 7号, 2014年3月, pp.105-125.
〈学会発表〉
・「高等学校数学科における美的性質への着目を促す教材の特徴に関する一考察」, 日本教材学会, 中部大学, 2014年10月18日.
・「高等学校数学科における美的性質の教材化に関する一考察：17世紀微分積分学における美的性質の特定」, 日本数学教育学会, 熊本大学, 2014年11月8日.

平林真伊（数学教育学）
〈総説・科研報告書等〉
・「算数科における思考・判断・表現の評価課題の開発」,『算数・数学科における「思考・判断・表現」の評価に関する研究』（公益財団法人　日本教材文化研究財団), 2014年9月30日, 114頁, 64－69頁
・「算数・数学の評価に関する海外の研究・実践の動向：Common Core State Standards に準拠した評価問題の分析」（公益財団法人　日本教材文化研究財団), 2014年9月30日, 114頁, 70－83頁（大塚慎太郎, 小泉友香, 榎本哲士との共著）
〈学会発表〉
・「数学的モデル化における問題場面の解釈に関する一考察：『混み具合の問題』を例として」, 筑波大学教育学会, 筑波大学附属中学校, 2014年3月8日.
・「児童による問題場面の解釈に関する一考察：『混み具合の問題』を例として」, 第5回日本科学教育学会研究会（北関東支部), 宇都宮大学, 2014年4月6日
・「数学的モデル化におけるモデル導出活動の促進に関する一考察」, 日本科学教育学会第38回年会, 埼玉大学, 2014年9月15日
・「小学校算数科における数学的モデル化能力を育成する教材の開発：文章題の解決過程に焦点をあてて」, 日本教材学会第26回研究発表大会, 中部大学, 2014年10月18日
※「Pupils' interpretations of a problem situation in mathematical modeling: The case of population density」, iSER 2014 World Conference, トルコ・カッパドキア, 2014年10月30日
・「児童による問題場面の解釈とその促進に関する一考察：『混み具合の問題』を例として」, 第47回秋期研究大会, 熊本大学, 2014年11月9日
〈その他　受賞など〉
・平成25年度　筑波大学大学院人間総合科学研究科長表彰, 2014年3月25日

宮本直樹（理科教育学）
〈論文〉
・「日本の小学校理科教科書と米国初等科学教科書における生物分野のデータ解釈の扱い方」,『科学教育研究』（日本科学教育学会), 第38巻, 第3号, 2014年9月, 176－187頁.
・「中学校理科における仮説設定とデータ解釈との関連 ―因果関係を踏まえた仮説の共有化, 洗練化に着目して―」,『理科教育学研究』（日本理科教育学会), 第55巻, 3号, 2014年11月, 341－350頁.
・「小学校理科教科書の化学分野におけるデータ解釈の扱い方」,『宮崎国際大学教育学部紀要 教育

科学論集』，創刊号，2014年12月，26－35頁．
・「理科教育におけるデータ解釈の機能とその阻害要因」，『宮崎国際大学教育学部紀要教育科学論集』，創刊号，2014月年12月，36－46頁．

〈総説・科研報告書等〉

・「小学生を対象とした霞ケ浦Ｅ・Ｓキッズプログラムの開発とその効果」，大髙泉・平成23－25年度科学研究費補助金（基盤研究（B)），『ドイツ・アメリカ等の新環境教育の教科教育学的検討と教科型環境学習プログラム開発』，2014年３月，100頁，71－78頁．

〈学会発表〉

・「中学校理科における仮説設定がデータ解釈に及ぼす効果―『唾液のはたらき』を事例にして―」，日本理科教育学会九州支部大会，熊本大学，2014年５月24日
・「探究プロセスにおけるデータ解釈の役割」，日本理科教育学会第64回全国大会，愛媛大学，2014年８月24日．
・「米国中等前期科学教科書におけるデータ解釈 ― Integrated i Science に着目して― 」，日本科学教育学会第38回年会，埼玉大学，2014年９月13日．

村井大介（社会科教育学）

〈論文〉

・「ライフストーリーの中で教師は授業を如何に語るか―教師の授業観からみた社会科教育研究の課題―」，『社会科教育研究』（日本社会科教育学会），No. 121，2014年３月，14－27ページ．
・「児童は生活科で学習したことをどのようにとらえているか―児童の言葉と視点から生活科の意義を探る方法の一提案―」，『学校教育学研究紀要』（筑波大学大学院人間総合科学研究科学校教育学専攻），第７号，2014年３月，61－81ページ．
・「カリキュラム史上の出来事を教師は如何に捉えているか―高等学校社会科分化の意味と機能―」，『教育社会学研究』（日本教育社会学会），第95集，2014年11月，67－87ページ．
・「地理歴史科教師の歴史教育観の特徴とその形成要因―教師のライフストーリーの聴き取りを通して―」，『社会科研究』（全国社会科教育学会），第81号，2014年11月，27－38ページ．

〈総説・科研報告書等〉

・「遠野の魅力を小学生・中学生は如何に捉えているか―児童・生徒の地域観を把握する調査方法の一提案―」，『地域と教育―岩手県遠野市―』（筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科教育学専攻「社会科教育学特講」調査報告），第13号，2014年８月，33－58ページ．

〈学会発表〉

・「公民科・地理歴史科成立の言説，意味，影響，機能―カリキュラム史上の出来事を教師はどのように捉えているか―」，日本公民教育学会第25回全国研究大会，福井大学，2014年６月28日．
・「教育課程の改訂における言説のレトリックと教育学的な知の諸課題―高等学校社会科分化をめぐる論争を事例にして―」，日本教育社会学会第66回大会，松山大学，2014年９月14日．
・「地理歴史科教師は「地理」を教えることを如何に捉えているか―教師のライフストーリーと諸言説の対比を通して―」，全国社会科教育学会第63回全国研究大会，愛媛大学，2014年11月１日．
・「社会科教員養成におけるライフストーリーの応用可能性―教科観の形成と語りの効用―」，日本社会科教育学会第64回全国研究大会，静岡大学，2014年11月29日．

村松遼太（道徳教育学）

〈学会発表〉

・「TAの視点からみた出席カードと採点支援システムの開発」，筑波大学教育学会，筑波大学附属中高等学校，2014年３月８日

山崎美穂（数学教育学）

〈学会発表〉

・「文化的視座による数学的価値を捉える枠組みの開発」，日本数学教育学会，熊本大学，2014年11月９日．

呂　光暁（社会科教育学）

〈論文〉

・「「概念変化」を通して経済に関する素朴理論を科学的理論に転換させる試み―単元「米の値段」(5年)を事例として―」『公民教育研究』（日本公民教育学会）第21号，2014年３月，63－78頁。

・「経済理解における素朴理論の科学性と非科学性に関する理論的・実証的研究」『学校教育学研究紀要』（筑波大学人間総合科学研究科学校教育学専攻）第７号，2014年３月，83－103頁。

・「経済的な見方や考え方と日常経験の関係性に関する研究―小学校児童を対象に―」『経済教育研究』（経済教育学会）第33号，2014年９月，130－140頁。

〈総説・科研報告書等〉

・「遠野市における曲り家と教育の連携」，井田仁康，「社会科教育学特講」調査報告，『地域と教育』第13号，筑波大学博士課程人間総合科学研究科学校教育学専攻，2014年８月，145頁，59－77頁。

〈学会発表〉

・「ものの値段から経済的因果関係を理解する社会科授業の開発」，日本社会科教育学会，静岡大学，2014年11月30日。

《ヒューマン・ケア科学専攻共生教育学分野》

新井　雅（共生教育学）

〈編著書〉

・新井　雅，「第８章　児童生徒の多様性の理解と対応」，石隈利紀・庄司一子（編著），『新教職教育　講座　第４巻　生徒指導とカウンセリング』，2014年３月，共同出版，323ページ（総ページ），153－172.

〈論文〉

・新井　雅・庄司一子，「臨床心理士，教師，養護教諭によるアセスメントの特徴の比較に関する研究」『心理臨床学研究』，32巻，２号，2014年６月，215－226.

・新井　雅・庄司一子，「心理専門職によるアセスメントのプロセスに関する展望―児童・青年期の臨床事例を中心に―」，『カウンセリング研究』，47巻，１号，2014年２月，11－19.

・新井　雅・庄司一子，「学校支援ボランティアの役割と課題―中学校での実践事例を通して―」『筑波大学発達臨床心理学研究』，25巻，2014年１月，１－９.

・庄司一子・簡浚佑・崔玉芬・山田有芸・新井雅・江角周子，「「モノの意味」に関する研究」，『筑波大学発達臨床心理学研究』25，2014年２月，39－48.

・新井雅・桜井淳平，「「共生志向」に影響を及ぼす要因の検討」岡本智周・坂口真康編，『共生社会

に関する調査―2014年調査報告―』筑波大学人間系研究戦略委員会，2014年12月，pp. 18－35

〈総説・科研報告書等〉

・新井　雅，「臨床心理士としての５年間と，これからの「心理学」生活」，『臨床心理士報』，46号，2014年１月，29.

・新井　雅，「平成25年度フレックススクール茎崎高校におけるスクールカウンセリング実践報告」，庄司一子・新井　雅・江角周子・関　琴葉(編集)，『平成25年度筑波大学「革新的な教育プロジェクト支援」によるキャンパスエイド活動報告』，筑波大学教育臨床学研究室，2014年３月，35－38.

・庄司一子・新井　雅・江角周子，「キャンパスエイド活動を通しての学生の気づき・成長―経験者へのインタビューを通して―」庄司一子・新井　雅・江角周子・関　琴葉(編集)，『平成25年度筑波大学「革新的な教育プロジェクト支援」によるキャンパスエイド活動報告』，筑波大学教育臨床学研究室，2014年３月，40－50.

・新井　雅，「韓国心理学会2013における研究発表報告」，庄司一子・新井　雅・江角周子・関　琴葉(編集)，『平成25年度筑波大学「革新的な教育プロジェクト支援」によるキャンパスエイド活動報告』，筑波大学教育臨床学研究室，2014年３月，55－57.

〈学会発表〉

・新井　雅・庄司一子，「スクールカウンセラーと教師のアセスメントの共有方略パターンと職種間協働の関連」，日本学校心理学会第16回大会，2014年９月７日，玉川大学

・新井　雅・庄司一子，「スクールカウンセラーと教師のアセスメントの共有方略が協働的援助に及ぼす影響―学校における打ち合わせ状況別の検討―」，日本教育心理学会第56回大会，2014年11月７日，神戸国際会議場

・新井雅・桜井淳平，「「共生」志向に影響を及ぼす要因の検討」，筑波大学人間系「第12回人間系コロキアム」，筑波大学，2014年７月

※ Masaru Arai & Ichiko Shoji,「The effects of training college students to collaborate with teachers based on case assessment」, 36th Annual Conference of International School Psychology Association, July.17, 2014, Vytautas Magnus University, Lithuania.

・江角周子・新井　雅・鈴木悠介・長谷志津恵・庄司一子・石隈利紀，「心理的支援活動を通した大学院生の気づき（1）―生徒理解，支援方法の変化に着目して―」，日本教育心理学会第56回大会，2014年11月７日，神戸国際会議場

・鈴木悠介・長谷志津恵・江角周子・新井　雅・庄司一子・石隈利紀，「心理的支援活動を通した大学院生の気づき（2）―教師像の変容に着目して―」，日本教育心理学会第56回大会，2014年11月７日，神戸国際会議場

・庄司一子・簡 浚祐・新井　雅・山田有芸・江角周子・崔 玉芬，「「大切な物」の意味と働き」，日本教育心理学会第56回大会，2014年11月８日，神戸国際会議場

江角周子（共生教育学）

〈論文〉

・江角周子・庄司一子，「よい聴き手とは？― Bodie らの一連の研究を中心に―」，『筑波大学発達臨床心理学研究』25，2014年２月，33－38.

・庄司一子・簡浚佑・崔玉芬・山田有芸・新井雅・江角周子，「「モノの意味」に関する研究」，『筑波大学発達臨床心理学研究』25，2014年２月，39－48.

・江角周子・大林沙希・長創一朗，「障害者・高齢者施策の必要性の認識を分ける要因の検討」，『共

生社会に関する調査―2014年調査報告―』（筑波大学人間系研究戦略委員会），2014年12月，52－63.

〈学会発表〉

・江角周子・庄司一子，「中学生が捉える「聴く」ことの手がかりの質的検討」，日本発達心理学会「第25回大会」，京都大学，2014年３月23日.

・江角周子・大林沙希・長創一朗，「障害者・高齢者施策の必要性の認識を分ける要因の検討」，筑波大学人間系「第12回人間系コロキアム」，筑波大学，2014年７月２日.

※ Shuko Esumi, Ichiko Shoji, The effect of experiencing mutual peer support in junior high school students －Focusing on listening－, 36th Annual Conference of International School Psychology Association, Vytautas Magunas University, July. 7, 2014.

・江角周子・庄司一子，「中学校におけるピア・サポート研修の効果に関する量的・質的検討」，日本学校心理学会「第16回大会」，玉川大学，2014年９月７日.

・江角周子・新井雅・鈴木悠介・長谷志津恵・庄司一子・石隈利紀，心理的支援活動を通した大学院生の気づき（1）―生徒理解，支援方法の変化に着目して―，日本教育心理学会「第56回総会」，神戸国際会議場，2014年11月７日.

・鈴木悠介・長谷志津恵・江角周子・新井雅・庄司一子・石隈利紀，心理的支援活動を通した大学院生の気づき（2）―教師像の変容に着目して―，日本教育心理学会「第56回総会」，神戸国際会議場，2014年11月７日.

大林沙希（共生教育学）

〈論文〉

・内田沙希，「学級研究が捉える学級集団の有り様に関する一考察」，『学校経営学論集』第２号，筑波大学学校経営学研究会，2014年２月，pp. 46－53

・江角周子・大林沙希・長創一朗，「障害者・高齢者施策の必要性の認識を分ける要因の検討」，岡本智周・坂口真康編『共生社会に関する調査―2014年調査報告―』，筑波大学人間系研究戦略委員会，2014年12月，pp. 52－63

〈総説・報告書等〉

・竺沙知章・大林正史・内田沙希，「『スクールリーダー・フォーラム』の分析」委員長：水本徳明『スクールリーダー育成支援―外部評価―』，大阪教育大学スクールリーダー・プロジェクト外部評価委員会，2014年３月，pp.24－37

・水本徳明・内田沙希，「教員免許制度」・「教員人事」・「教職員の服務と分限・懲戒」・「勤務時間と休暇」水本徳明編著『総合教育技術７月号増刊　実践教育法規 2014』，小学館，2014年６月，pp.104－111

〈学会発表〉

・水本徳明・内田沙希・大林正史・田中真秀・山本遼・竺沙知章・曽余田浩史・曽余田順子，「大学院におけるスクールリーダー教育の実践と課題―大阪教育大学スクールリーダープロジェクトの外部評価に基づいて―」，日本教育経営学会第54回大会，北海道教育大学釧路校，2014年６月７日

・江角周子・大林沙希・長創一朗，「障害者・高齢者施策の必要性の認識を分ける要因の検討」，筑波大学人間系「第12回人間系コロキアム」，筑波大学，2014年７月２日

坂口真康（共生教育学）

〈論文〉

・坂口真康・島埜内恵・岡本智周，「日本の国際化に対する認識の検討―マイノリティ支援に対する認識との関連」岡本智周・坂口真康編『共生社会に関する調査―2014年調査報告』，筑波大学人間系研究戦略委員会，2014年12月，pp. 66－80.

〈総説・科研報告書等〉

・坂口真康，「闘い抜くために歌われた歌―音楽を通じた人の繋がり『AMANDLA アマンドラ！希望の歌』(2002年)」，荒川麻里代表，『映画で学ぶ《教育学》』最終号，教師教育視聴覚教材研究会，2014年12月，総ページ数：31ページ，掲載ページ：pp. 18－21.

〈学会発表〉

・坂口真康・島埜内恵・岡本智周，「日本の国際化に対する認識についての一考察―「トランスナショナリズム」および「インターナショナリズム」傾向に焦点をあてて」，第12回筑波大学人間系コロキアム，筑波大学，2014年７月２日.

・坂口真康，「「共生社会」のための教育を巡るせめぎ合いに関する一考察―南アフリカ共和国西ケープ州の高等学校におけるフィールド・ワークを手がかりとして」，日本比較教育学会第50回大会，名古屋大学，2014年７月12日.

・坂口真康，「南アフリカ共和国における高校生の「共生」志向に関する一考察― Life Orientation の学習経験との関連に着目して」，日本教育社会学会第66回大会，愛媛大学・松山大学，2014年９月13日.

桜井淳平（共生教育学）

〈論文〉

・桜井淳平，「「子どもの犯罪被害」に関する報道言説の通時的変化―〈被害防止対策〉拡大の源を探る―」，『子ども社会研究』日本子ども社会学会，No. 20，2014年６月，pp. 31－45

・桜井淳平，「子育てと家族に関わる意識とその背景要因の探索―「共生」が育む新たな子育て・家族のありよう―」，岡本智周・坂口真康編『共生社会に関する調査―2014年調査報告―』筑波大学人間系研究戦略委員会，2014年12月，pp. 38－50

・新井雅・桜井淳平，「「共生志向」に影響を及ぼす要因の検討」岡本智周・坂口真康編，前掲書，2014年12月，pp. 18－35

〈学会発表〉

・桜井淳平，「「いじめ」をめぐる人々の〈語り方〉はどう変化したか―新聞投書欄にみる言説の通時的分析を通じて―」，日本子ども社会学会第21回大会，敬愛大学，2014年６月

・桜井淳平，「子育てと家族に関わる意識とその規定因の探索――「共生」が育む新たな子育て・家族のありよう」，筑波大学人間系「第12回人間系コロキアム」，筑波大学，2014年７月

・新井雅・桜井淳平，「「共生」志向に影響を及ぼす要因の検討」，筑波大学人間系「第12回人間系コロキアム」，筑波大学，2014年７月

〈その他　受賞など〉

・平成25年度日本子ども社会学会共同プロジェクト事業「奨励研究基金」受賞（個人）